

## 令和２年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

安全で安心な居場所で小さな成功体験を積み重ねることで生徒を社会参画する市民として育て、社会に送り出すセーフティネットとしての学校をめざす。

- 1 個に応じた学習指導の工夫に努め、学力の向上を図る。
- 2 生徒の自己実現を支援する進路指導を推進する。
- 3 豊かな心や社会性を育む。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

(1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。

ア 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など組織的な取組みを推進する。

イ 一人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。

※生徒向け授業アンケートにおける「授業の進度や難易度」の肯定率を令和４年度には95%とする。(H29：88% H30：88% R1：87%)

※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」の肯定率を令和４年度には85%とする。(H29：78% H30：76% R1：80%)

※教員向け学校教育自己診断における「授業改善」の肯定率を令和４年度には95%とする。(H29：88% H30：79% R1：86%)

※生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の肯定率を令和４年度には80%とする。(H29：67% H30：68% R1：67%)

## 2 キャリア教育及び進路指導の充実

(1) 将来の自立や社会参加、進路実現につながるキャリア教育や進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。

ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。

イ 卒業生や企業、大学、専門学校等の職員からの聞き取りを通して、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。

ウ 教育課程に位置付けたキャリア教育科目を通して、良き社会人として素養を身に付けさせる。

エ 一人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒の理解を深めさせる。

※生徒向け学校教育自己診断における「教職員のカウンセリングマインド」の肯定率を令和４年度には90%とする。(H29：80% H30：78% R1：82%)

※生徒向け学校教育自己診断における「保健室など教室以外の所での居場所」の肯定率を令和４年度には80%とする。(H29：65% H30：65% R1：66%)

※生徒向け学校教育自己診断における「進路情報周知」の肯定率を令和４年度には95%とする。(H29：81% H30：78% R1：74%)

※保護者向け学校教育自己診断における「進路情報周知」の肯定率を令和４年度には95%とする。(H29：82% H30：80% R1：100%)

※学校斡旋の就職内定率を令和４年まで90%以上を維持する。(H29：93% H30：100% R1：90%)

## 3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

(1) 特別活動や生徒会活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。

ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。

イ 人間関係形成能力を育成するため、「挨拶運動」に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における項目「学校行事」の肯定率を令和４年度には90%とする。(H29：76% H30：79% R1：70%)

※教員向け学校教育自己診断における項目「主体的な活動の支援」の肯定率を令和４年度まで90%以上を維持する。(H29：67% H30：92% R1：91%)

※生徒向け学校教育自己診断における「挨拶の励行」の肯定率を令和４年度には90%とする。(H29：74% H30：79% R1：80%)

(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。

ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。

イ 支援や指導が必要な生徒に適切な対応を行うことができるよう、生徒支援体制を充実する。

※生徒向け学校教育自己診断における項目「人権学習」の肯定率を令和４年度には90%とする。(H29：73% H30：77% R1：76%)

※教員向け学校教育自己診断における項目「人権教育の推進」の肯定率を令和４年度まで90%以上を維持する。(H29：79% H30：100% R1：91%)

## 4 学校運営体制の確立及び人材の育成

(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。

ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校運営をすすめる。

イ 分掌や年次会議を充実させ、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。

※教職員向け学校教育自己診断における項目「分掌や年次の連携」の肯定率を令和４年度には80%とする。(H29：63% H30：71% R1：86%)

※教職員向け学校教育自己診断における項目「会議の有効機能」の肯定率を令和４年度には80%とする。(H29：42% H30：75% R1：62%)

(2) 次代を支える教員（ミドルリーダー・若手教員）の育成を図る。

ア 教職経験の少ない教員を対象とした校内研修「フレッシュマンセミナー」の実施や教員の自主研修を実施し、人材の育成を図る。

(3) 再編整備計画を踏まえ、今後のⅢ部及び定時制の課程（夜間）の在り方についての方向性を示す。

☆ これらの取組を通して、単位修得率の向上を図り、卒業生数の増加をめざす。

## 府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○得点の高い項目</p> <p>「学校に対する項目」</p> <p>生徒：学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。《82.4%》</p> <p>保護者：学校は教育情報を、保護者に提供する努力をしている。《100%》</p> <p>教職員：生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています。《91.3%》</p> <p>「教育活動に対する項目」</p> <p>生徒：教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。《88.2%》</p> <p>保護者：この学校には他の学校にない独自の教育活動に取り組んでいる。《100%》</p> <p>教職員：生徒のレベルに応じた分かりやすい授業をつくる努力をしている。《95.7%》</p> <p>「学校に対する項目」では、昨年と同様に教員と生徒・保護者とのコミュニケーションに関する項目で肯定率が高かった。日常的に様々な場面において、教員が生徒や保護者との連絡を密に行っていることがうかがえる。</p> <p>「教育活動に対する項目」では、こちらも昨年と同様授業の工夫や進め方に関する項目が高い評価を得た。教員が生徒の学力や学習状況を踏まえて授業の内容や展開を検討し、生徒・保護者がそれを肯定的に捉えているという関係性がうかがえる。昨年と同様の結果になったことから、生徒にとって「分かる・できる授業」の展開を学校全体で取り組む姿勢が定着していると捉えられる。</p> <p>○得点の低い項目</p> <p>「学校に対する項目」</p> <p>生徒：授業や部活動での活動を通して、地域の人々と関わる機会がある。《60.3%》</p> <p>保護者：この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある《50.0%》</p> <p>教職員：地域の人々と接する機会を持っている。《36.4%》</p> <p>「教育活動に対する項目」</p> <p>生徒：環境、国際理解、福祉ボランティアなどの新しい課題について学習する機会がある。《61.8%》</p> <p>保護者：子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている《50.0%》</p> <p>教職員：思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。《65.2%》</p> <p>「学校に対する項目」では、昨年と同様「地域の人々との関わり」「行事への参加」の肯定率が低い結果となった。活動時間や規模などの点で定時制としての制約はあるが、生徒に社会参画の経験を積む機会を用意するという点から、地域と連携した取り組みを検討していきたい。</p> <p>「教育活動に対する項目」に上がっている項目は、他の項目に比べて低い値を示したものであるが、評価自体は概ね良好であると捉えられる。今後、新カリキュラムが導入されるなかで項目にあるような「新しい課題」や「問題解決的な学習」を扱うことが求められる。これまで展開し、定着しつつある教員の授業の取り組みをもとに、生徒の実情を踏まえた教材研究や授業展開の工夫を進めたい。</p>	<p>○第1回（7月に書面開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「働き方改革」という点において、この間、様々な取組みで業務の種類や量が増えてきているのではないかと思います。業務の整理や効率化を是非とも検討してください。</li> <li>・進路や支援に関して、SCやキャリアカウンセラーなどの専門家も含めた組織体制が整っているように見受けられます。今後、経済の落ち込みがすでに始まっている中、就職活動やアルバイトしながら通うことが難しくなる可能性もありますが、生徒ひとり一人が「桃谷高校に通って達成したい目標」を折に触れて確認し、サポートしてほしいところです。区役所ではハローワークとの連携を、若者支援も含めて強化していく予定なので、何か一緒にできる機会があるかもしれません。</li> <li>・わかる授業や、コミュニケーション力をつけるとかあきらめない気持ち等、保護者のような気持で取り組んでいただいていると思います。</li> </ul> <p>○第2回（12月に書面開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験年数の少ない教員が主体的に「オンライン授業」を検討され全体化されているのは素晴らしいことだと思います。</li> <li>・外国籍生徒に対してぜひとも「学歴キャリア」を付けていただきたい。どのような困難さを学校側が感じているのかも知りたいです。</li> <li>・学校行事や部活動にも力を入れ取り組まれていることは素晴らしいことだと思います。社会に出て自信を持っていけるような取組みは、この先とても良い経験になりと思います。</li> <li>・15才から70代までを対象に「教育の機会」を提供していただき、感心しております。「楽しい学びの場づくり」と「楽しい生活」の連携として、福祉との共同が必要であると感じています。</li> <li>・外国ルーツの生徒が多いということで、多文化共生に対する取り組みが行われているのはとてもよいと感じます。概ね、授業アンケートの回答は肯定的で、課題を抱える生徒に対しても丁寧に対応しているところや、行事や授業を工夫して実施しようとする教職員のみなさんの努力が伝わっているものととらえています</li> <li>・コロナ禍であることを言い訳にせず、積極的な取り組みを展開していただいていることに感謝します。特に、制度の網からこぼれがちな年齢層の若者をかかえている学校ですので、SSWやSCと連携した生徒のケアについては、今後も引き続きよろしくお願いいたします。</li> </ul> <p>○第3回（2月から3月にかけて書面で開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中で、実施が難しかったものを除いて、計画された様々な取組みに着実に取り組まれ、成果が得られていると思います。特に区役所等の福祉課との連携で対応されたことは、生徒への新たな支援につながっていくのではないかと思います。</li> <li>・学校教育自己診断の結果より、学校全体として先生方が授業の工夫改善に取り組んでこられたことが、定着してきたと感じます。引き続き、授業の工夫改善に取り組む、より生徒の興味関心を高められる授業の実施を期待します。</li> <li>・生徒の自己診断で、「教え方に様々な工夫をしている先生がいる」の肯定率の88.2%に感銘しました。</li> <li>・校内の居場所づくりはポイントがやや落ちていますが、これも大切なポイントだと思います。</li> <li>・Ⅲ部は、学力と社会とのつながりを大切にされています。今年は大人数で集まることができなかった割には、生徒さんの学校に対する評価はよかったと思います。</li> </ul>

## 府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	<p>(1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。</p> <p>ア 「桃谷授業スタンダード（授業モデル）」を活用した、授業づくりの推進</p> <p>イ 授業アンケート等を効果的に活用した組織的な取組の実施</p> <p>ウ 「学習環境」を確保するための授業規律の確立</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「桃谷授業スタンダード」を活用した授業づくりを進め、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善を進める。また、必要に応じて、スタンダードの見直しを図る。</p> <p>・T・Tを積極的に取り入れ生徒の個々の状況に応じた学習を支援する。</p> <p>イ・研究授業や公開授業期間を設定し、教員相互に授業に対する意見交換を行い、授業改善につなげる。</p> <p>・管理職による授業観察や授業アンケート結果を踏まえた教員の個別面談を実施し、授業者にフィードバックする。</p> <p>ウ・全教員が共通認識を持って、スマートフォン使用や私語などに対する指導を行う。</p> <p>・全教員で指導を行うことにより、「授業規律」に対する生徒の意識向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「桃谷授業スタンダード」を活用した研究授業の実施</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめ発表する」の肯定率65% (R1 : 61%)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の肯定率70%を維持 (R1 : 71%)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率90%。(R1 : 86%)</p> <p>イ・教員相互の授業見学を2回以上実施し全教員が各授業観察シートを提出する。</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「他の教員の授業見学を行い授業改善を行っている」の肯定率90% (R1 : 86%)</p> <p>・管理職による授業観察を2回以上、教員の個別面談を2回以上実施</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の肯定率75% (R1 : 67%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「総合的な学習（探究）の時間」の選択集中で調べ学習とプレゼンテーションを実施</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめ発表する」の肯定率70.6% (○)。</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の肯定率65.2% (△)。</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率65.2% (△)。</p> <p>イ・教員相互の授業見学期間を7～8月と11月に設定</p> <p>・フレッシュマンセミナーで授業づくりについての研修を実施。10年経験者研修受講者が担当者と綿密な打合せのうえ、自身の授業実践について講義を行いセミナー受講者の授業を見直すきっかけを作った。そのセミナーの内容をもとに、受講者は授業を行い、後のフレッシュマンセミナーで振り返りを行うなど、今年度の本校の授業改善に大きな役割を果たした。</p> <p>・「オンライン授業検討チーム」を設置。臨時休業時のオンライン授業に向けた準備を行う。授業の振り返りにフォーム作成ツールを活用する教員もいる</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「他の教員の授業見学を行い授業改善を行っている」の肯定率69.6% (△)。</p> <p>・管理職による授業観察、教員の個別面談を1回以上実施 (△)。</p> <p>ウ・授業遅刻等の防止のために巡回や立ち番を実施</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の肯定率76.5% (○)。</p>
2 キャリア教育及び進路指導の充実	<p>(1) キャリア教育や進路指導推進のためのカウンセリング及びガイダンス機能の充実</p> <p>ア 生徒の生活背景から理解した支援・指導の強化</p> <p>イ 進路部員、担任を中心として、一人ひとりの将来像の確立</p> <p>ウ 生徒・保護者への適切な進路情報の提供</p>	<p>(1)</p> <p>ア・家庭、中学校や前籍校、勤務先などの訪問や懇談週間を設定した生徒懇談などを通して生徒理解を深める。</p> <p>・長期欠席の生徒について、家庭訪問の充実を図り、個々の状況の把握に努める。</p> <p>・SCやSSWを活用し、外部機関と連携して生徒支援の充実を図る。</p> <p>イ・進路部員、担任を中心として、生徒や保護者対象の進路説明会や個別指導などを実施する。</p> <p>・進路指導の充実のために、外部人材や外部機関を有効に活用する</p> <p>ウ・進路HRや個人面談などにおいて、個々に応じた進路情報を生徒及び保護者に積極的に提供する</p> <p>・進路だよりを定期的に発行し、進路情報の見える化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・担任や進路部等による生徒の個別懇談の年2回以上実施する。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率85% (R1 : 82%)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率100% (R1 : 91%)</p> <p>・生徒支援を充実させるために、SC、SSWを有効に活用する</p> <p>イ・進路HR、個人面談、進路情報提供等の充実</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路を考える機会がある」の肯定率80% (R1 : 75%)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「望ましい勤労観職業観がもてるよう進路指導を行っている」の肯定率85% (R1 : 76%)</p> <p>・学校幹旋の就職内定率90%以上 (R1 : 90%)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率85% (R1 : 74%)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率95% (R1 : 100%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・短縮授業期間を設け、担任や進路部等による生徒の個別懇談等を実施した。</p> <p>・新入生の出身中学校や前籍校を訪問し、情報収集を行う。本人、保護者からの聞き取りも含め生徒情報交換会で情報共有し、生徒の支援に活用した</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率79.4% (△)。</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率95.7% (△)。昨年度より上昇。</p> <p>・SC、SSWに定期的に勤務いただいた。ケース会議や生徒の個別面談等に当たっていただいた。</p> <p>・生徒支援委員会主催で7月に自傷行為についての研修を実施し、SCの講義とSSWから助言をいただいた。</p> <p>・区役所等の福祉課等と、要保護児童対策地域協議会に上がっている生徒について情報交換を行う。また、複数のケースについて関係各所に相談し、校内で対応を行った。(◎)</p> <p>イ・校長マネジメント経費を活用し、キャリアカウンセラーを活用。個別対応を含め、就職指導に当たっていただいた</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路を考える機会がある」の肯定率82.4% (◎)。</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「望ましい勤労観職業観がもてるよう進路指導を行っている」の肯定率82.6% (△)。昨年度より上昇。</p> <p>・人数は少ないが、学校幹旋の就職希望者3人すべてが内定を得た (○)。</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率73.5% (△)。</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率50% (△)。例年、文化祭当日に記載いただくが、今年度は実施できず、郵送等による回答となった。そのため提出が4人と、評価指標にするには母数が少なすぎる状況になった。</p>

## 府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

<p>3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成</p>	<p>(1)特別活動や生徒会活動を通じた生徒の自己肯定感・有用感の醸成と居場所づくり ア 学校・クラスなどへの帰属意識の向上 イ 行事や生徒会活動、部活動などの活性化と生徒が主体となる活動の支援 ウ 人間関係形成能力を育成のきっかけとするための「挨拶運動」の実施</p> <p>(2)生命の尊さに気づかせ自他を認める態度や人格の育成 ア 様々な人権問題の解決をめざした総合的な人権教育の推進 イ 災害時に自らの命を守る行動ができるよう安全指導の徹底</p>	<p>(1) ア・生徒の学校への帰属意識が高まるよう総合学習やLHRの実施方法・内容の充実を図る。 イ・多くの生徒が参加できるよう、学校行事の実施方法を工夫し一層の充実を図る。 ・始業式や終業式、生徒集会などにおいて「部活動紹介」や「各種大会・発表会の受賞者紹介」を積極的に行う。 ウ・校内において教員が挨拶を励行し、登下校時の「挨拶運動」に取り組む。</p> <p>(2) ア・「人権教育年間計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。 ・合格者説明会、受講指導等を利用し、本名指導を行う。 ・道徳教育推進教師を中心に、Ⅲ部及び定時制の課程（夜間）における道徳教育の充実を図る。 イ・日常的に安全指導の充実を図り、災害時の避難行動について理解できるよう、実践的な避難訓練の実施を行い、生徒の安全に関する、意識の向上を図る。 ・校内掲示等、安全に対する生徒の意識向上を図る。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率70% (R1：60%) イ・生徒向け学校教育自己診断「学校行事はみんなが楽しく行えるように工夫している」の肯定率80% (R1：74%) ・教職員向け学校教育自己診断「部活動の活性化について工夫している」の肯定率76% (R1：76%) ウ・生徒向け学校教育自己診断「挨拶の励行」の肯定率80% (R1：80%)</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定率90% (R1：76%) ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率85%(R1：82%) ・今年度の実施を次年度の計画に生かす イ・生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率90% (R1：73%)</p>	<p>(1) ・遠足、球技大会は中止。感染防止対策を講じながら、体育祭（10月）修学旅行（11月）文化祭（12月）芸術鑑賞（12月）は実施。内容については縮小。 ア・生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率61.8%。コロナ禍で、教育活動や学校行事に様々な制約があった中でも、昨年度より微増（○）。 イ・生徒向け学校教育自己診断「学校行事はみんなが楽しく行えるように工夫している」の肯定率82.4%（○）。コロナ禍のなか、上記内容を様々な工夫をして実施した。 ・軟式野球部、バスケットボール部、テニス部が公式戦に出場。軟式野球部は定通総体3位、バスケットボール部は1回戦突破。テニス部は、高校になって始めた生徒が2度の試合で1回戦突破。 ・生徒が出身に国のことをみんなに知ってもらいたいと、多文化Waiwaiクラブで「ネパール新聞」を作成。府立外教主催「Waiwaiトーク」（母語でのスピーチ大会、今年度は映像による審査）に出場。 ・教職員向け学校教育自己診断「部活動の活性化について工夫している」の肯定率50.0%（△）。コロナ禍で活動の制限や大会等の減少の影響もあると考えられる。 ウ・登下校時に教職員が玄関前に立ち、挨拶運動を実施。下校時の当番は4人だが、多い時には10人以上が参加。 ・生徒向け学校教育自己診断「挨拶の励行」の肯定率69.1%（△）。</p> <p>(2) ア・9月に同和問題に関する教職員研修を実施。桃谷高校全体では8月に「性的マイノリティの人権課題を踏まえた職場におけるハラスメントの防止について」をテーマに人権侵害防止研修を実施。 ・7月と1月に年次ごとにテーマを決めて人権HRを実施。臨時休業の影響で昨年度より1回減。 ・生徒向け学校教育自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定率85.1%と減少したが、コロナの影響で、昨年度まで年3回行っていた人権HRを1回減らし2回にしたにもかかわらず、昨年度より肯定率が上昇した（○）。 ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率79.4%（△）。 イ・例年2回行っている避難訓練は、臨時休業の影響で1回減。11月に地震とそれによる停電を想定した避難訓練を実施。 ・生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率83.8%。コロナ禍で避難訓練を1回しか実施できなかったが、昨年度より大幅に上昇（○）。</p>
<p>4 学校運営体制の確立及び教職員の資質向上</p>	<p>(1)学校運営体制の充実及び教職員の資質向上 ア 運営委員会を核とした学校運営 イ 分掌等組織の会議の充実と組織間の連携を図った校務の効率化 ウ これらを通して働き方改革を進める</p> <p>(2)次代を支える教員(ト・ル・カ・若手教員)の育成 ア 教職経験の少ない教員を対象とした校内研修「フレッシュマンセミナー」の実施や校外研修成果の共有化</p> <p>(3)今後のⅢ部及び定時制の課程（夜間）の在り方について議論</p>	<p>(1) ア・学校組織の位置付けについて周知を図り、組織的な運営を進める。 イ・分掌会議や年次会、委員会などの意見の情報共有を図り、会議の効率化と会議間の連携を深める。 ウ 会議の効率化や機能の充実を図り、働き方改革を進める</p> <p>(2) ア・管理職や中堅教員が講師となり、経験年数の少ない教員を対象とした「フレッシュマンセミナー」を開催し、人材育成を図る。 ・職員会議等で校外研修の伝達講習を行い、情報を共有し資質向上につなげる。</p> <p>(3) ・「将来構想会議」を定期的に開催し、年度内に今後のⅢ部及び定時制の課程（夜間）の在り方についての議論を進める。 ・「桃谷授業スタンダード」の見直しについて、必要性も含め検討する。</p>	<p>(1) ア・教員向け学校教育自己診断「会議の有効機能」の肯定率75% (R1：62%) イ・教職員向け学校教育自己診断「分掌や年次の連携」の肯定率75%以上を維持 (R1：85%) ウ・職員会議については、議事の精選、会議資料の事前配付等を行い、1時間以内で終わるようにする</p> <p>(2) ・「フレッシュマンセミナー」の開催 ・教員向け学校教育自己診断「研修成果の伝達機会の設定」の肯定率90% (R1：76%)</p> <p>(3) ・「将来構想会議」より、今後の在り方について運営委員会に提案を行う</p>	<p>(1) ・運営委員会（月）分掌会議（火）年次会（水）職員会議（隔週木）を定例で開催 ア・教員向け学校教育自己診断「会議の有効機能」の肯定率56.5%（△）。 イ・教職員向け学校教育自己診断「分掌や年次の連携」の肯定率78.3%（○）。 ウ・職員会議については、おおむね1時間以内で終わることができた（○）。 ・業務改善に向けたアンケートを実施。次年度計画に生かす。</p> <p>(2) ・「フレッシュマンセミナー」を開催。今年度のテーマは「伝える」10年経験者研修受講者による授業づくりの研修や再任用教員による経験談なども取り入れた（○）。 ・教員向け学校教育自己診断「研修成果の伝達機会の設定」の肯定率68.2%。コロナ禍により集合研修がほとんどなく、伝達機会を持つことができなかった。（一）</p> <p>(3) ・将来構想会議の検討内容、メンバー等の決定が十分でなく、今年度は「将来構想会議」を行わず（△）。次年度は、観点別評価に係る検討チームを立ち上げ、Ⅲ部及び定時制の課程の将来を見据えた教育活動(学習活動)の在り方について検討を進める。</p>